

令和2年度強度行動障害者 生活サポート事業研修報告

テーマ

『危機介入セラピューティックホールド』 ～安心・安全な暮らしを目指して～

講師:社会福祉法人 旭児童ホーム 主任 平本 譲 氏

日時:令和2年11月5日(木) 15:30～18:00

場所:社会福祉法人かながわ共同会
津久井やまゆり園芹が谷園舎体育館



県域及び地域の事業所、法人職員の支援力の向上を目的として、強度行動障害地域生活サポート事業(神奈川県強度行動障害対策研修)を今年度も無事に開催する事が出来ました。

今年度はコロナ禍の為、研修を開催出来ない期間が続いていましたが、職員からの研修希望の声も出ており研修の開催となりました。

講師として千木良時代より毎年セラピューティックホールド研修で支えて頂いている、社会福祉法人旭児童ホーム主任、平本譲講師をお迎えしました。

ソーシャルディスタンスや3密回避、消毒や検温等の可能な限りの感染対策を行ない、合計26名(園外7名・園内19名)の方が参加されとても有意義な楽しい研修となりました。

講義前半では「感情のコントロールの難しい利用者への対応」をテーマにウェルフェアからウェルビーイングへという事で障害の有無に限らず一人の人間としての幸福の追求を目指す事を目標にするとの講義でした。

日々の支援の中で、どうしても目が行きがちになってしまう障害特性に対する課題にばかり目を向けるのではなく、一人の人間としての幸福とは何なのかを考え、ストレングス(強み)に着目し良い所に目を向けてより良い支援を目指すという講義でした。

支援者の大きな役割として重要な3つの安(安心・安全・安定)を生活の中で感じてもらえるようにする事が大切であり、しっかりと目を向ける事、視点を大切にすることでより安心して安全に安定して暮らせる環境を構築する事の大切さを講義を通して学ぶことが出来ました。

その中でも障害者が感じている関心や願望をどのように汲み取り、実現に向けて一緒に行動出来るか。また、日々の細かい記録やアセスメントを行なう事で、しっかりと分析をしストレングスを発見していく事の大切さを学びました。

後半の講義では「感情のコントロールが難しい利用者への危機介入」をテーマにタイムアウト・セラピューティックホールドを実践を交えて学びました。

対応困難な事例(パニックによる激しい自傷行為や他傷行為)に対して、しっかりと段階を踏んで対応をする必要性を講義を通して講師からも説明があり、しっかりと段階を踏む事で説明責任を果たせるとの内容もありました。

昨今、「説明責任」という言葉をよく耳にしますが、これは福祉にも関わる事です。支援を行なう中でのチームワークや対応に対する周知や議論を行ない続ける事でしっかりと根拠を持った対応が出来る事と必要性を学びました。

一人ではなく複数人で対応する事で怪我や事故への対応を行ない、すぐに応援を呼べる環境をしっかりと作る事で、安全に危機介入を行なう事が出来ると思います。

危機介入に入る前にしっかりと支援者が落ち着き、言葉のコミュニケーションを行ない、落ち着きを取り戻すためにタイムアウトを行なう。それでも危機介入の必要があればセラピューティックホールドを行ないクールダウンを図る。

しっかりと段階を支援者が理解し、知識を持った中で危機介入を行なえるようにする事の大切さを学びました。

コロナ禍で、不安な気持ちも持ちつつ少し構えていた中で始まった研修でしたが、平本講師のアイスブレイクをきっかけにとっても楽しい研修でした。

